

計算書類に対する注記（拠点区分用）

別紙2

平成30年3月31日現在

法人名 : 社会福祉法人 健祥会
拠点区分名 : ケアハウス健祥会アンダルシア

1.重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当拠点区分は、定額法による減価償却を実施している。

②無形固定資産（リース資産を除く）

当拠点区分は、定額法による減価償却を実施している。

③リース資産

当拠点区分は、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産についてリース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法による減価償却を実施している。

(2) 徴収不能引当金の計上基準

当拠点区分は、期末時の利用者に対する債権残高のうち1年を超える期間にわたり未徴収の債権の全額及びその他の債権残高に対して過去の徴収不能額の発生割合に応じた金額を徴収不能引当金として計上している。

(3) 賞与引当金の計上基準

当拠点区分は、決算日後最初に支給する賞与の支払いに備えるため、当該支給予定額のうち、当年度に帰属する期間に相当する金額を賞与引当金に計上している。

(4) 退職給付引当金の計上基準

職員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上している。

①退職給付見込額の期間帰属方法

当拠点区分は、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっている。

②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生年度に一括して費用処理している。

退職給付引当金の計算方法は、当年度期首より簡便法から原則法に変更している。

(5) 消費税の取扱い

当拠点区分は、消費税等の会計処理として、税込方式によっている。

2.重要な会計方針の変更

該当する事項はない。

3.採用する退職給付制度

当拠点区分は、職員の退職給付に充てるため、確定給付制度を採用している。退職一時金制度では、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給している。

「福祉医療機構」が運営する社会福祉施設職員等退職手当共済法に基づく退職手当共済制度を適用または準用している。

4. 拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分が作成する計算書類等は以下のとおりである。

- (1) ケアハウス健祥会アンドルシア拠点区分計算書類(第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式)
- (2) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙4)
 - ア. ケアハウス 健祥会アンドルシア
 - イ. 健祥会アンドルシア 建築
 - ウ. デイセンターカルメン
 - エ. デイセンターカルメン(訪問介護)
 - オ. 健祥会イントロセンター那賀
 - カ. 健祥会在宅介護支援センター羽ノ浦
 - キ. (市)配食サービス事業 デイカルメン
 - ク. (市)シルバーハウジング管理受託 デイ
 - ケ. 阿南北部第2高齢者お世話センター 受託
 - コ. (包括)介護予防支援事業
 - サ. 地域包括(旧在介センター) 建築
 - シ. 在宅医療・介護連携推進事業
- (3) 拠点区分資金収支明細書(別紙3⑩)の作成は省略している。

5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位:円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	63,791,800	0	0	63,791,800
建物	251,534,144	18,947,858	25,484,873	244,997,129
合 計	315,325,944	18,947,858	25,484,873	308,788,929

6. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩し

- (1) 固定資産の除売却に伴い、国庫補助金等特別積立金1円を取り崩した。

資産毎の内訳は以下の通りである。

- ①建物 該当する事項はない。
- ②構築物 該当する事項はない。
- ③機械及び装置 該当する事項はない。
- ④車輛運搬具 該当する事項はない。
- ⑤器具及び備品 メドマープロⅡの廃棄に伴う国庫補助金等特別積立金の取崩額 1円。

7. 担保に供している資産

担保に供されている資産は以下のとおりである。

土地 (基本財産)	63,791,800円
建物 (基本財産)	244,997,129円
計	308,788,929円

担保している債務の種類および金額は以下のとおりである。

設備資金借入金(1年以内返済予定額を含む)	24,000,000円
笑顔毎日建築設備資金借入金	27,000,000円
計	51,000,000円

8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物（基本財産）	670,193,949	425,196,820	244,997,129
構築物	25,273,634	16,385,473	8,888,161
機械及び装置	5,250,000	5,249,999	1
車輛運搬具	8,426,435	7,236,718	1,189,717
器具及び備品	26,482,384	24,921,627	1,560,757
有形リース資産	577,560	442,796	134,764
合 計	736,203,962	479,433,433	256,770,529

9. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当する事項はない。

10. 重要な後発事象

該当する事項はない。

11. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

(1) リース取引関係

① ファイナンス・リース取引

(ア) 有形リース資産の内容

サーバー、パソコン（器具及び備品）である。

(イ) 無形リース資産の内容

介護記録請求システム（ソフトウエア）である。

(ウ) リース資産の減価償却の方法

1. 重要な会計方針（1）固定資産の減価償却の方法に記載のとおりである。